

【1面から】 白川よう子衆院四国比例候補 石田まゆ衆院香川2区候補も訴え、両会場で4人が入党を決意しました。

宮本氏は自民党が裏金政治の真相究明や再発防止策に後ろ向きだとし、「全く反省がない。次の衆院選で退場してもらわない」と批判。「共産党は企業・団体献金を禁止することこそ最大の再発防止策だと法案を出し、たたかってきた。そう言い続けたことが国民の世論になり、国会の状況を変えてきた」と報告し、「お金の力で動く政治を終わらせよう。そのために企業・団体献金をビター文受け取らない共産党を大



きく。白川氏を四国から国会へ送ってほしい」と訴えました。

白川氏は四国中を駆け巡り、多くの声を受け止めてきたとし、「政治は必ず変えられます。みなさんの願いの声を必ず国政に届けたい。国民の命や暮らしを大切にしない、この歪んだ政治と一緒に変えていきましょう」と呼びかけました。

## 自衛隊護衛艦入港に対する 緊急抗議行動を展開

海上自衛隊護衛艦「あさぎり」が13日、高松港に入港しました。これに対し市民約40人が緊急の抗議行動をしました。

戦争をする国づくりを進める岸田政権は高松港を平時から使用できる「特定利用空港・港湾」に指定しています。2月にイージス艦

## 農業の再生 香川の現場レポート④ おしよせる温暖化 さらに食糧難

農民連 植村 隆昭

今年も酷暑の夏。農業の現場から地球の温暖化を感じ始めたのは、稲作農家であった30年もの昔のことです。収穫した米を農協で検査したら全部2等米。なぜでしょうか。屋に葉っぱで作った養分が夜は米粒に移動し透き通ったきれいな米は一等米になります。温暖化により夜に温度が高いと米粒内が白く濁り、その米が多いから2等米と評価されました。私が栽培しているコシヒカリは寒冷な北陸で育種されたもので、北陸よりも温暖な四国で栽培していたのだから当然です。

2021年にノーベル物理学賞を受賞した愛媛県出身の真鍋

「みようこう」、6月には掃海母艦「うらが」が入港。今月はあさぎりのほか護衛艦「あきづき」なども入港し、一般公開や広報を行う予定です。



高松港が軍港化され戦場になる危険性を強調。「県民合意のない高松港の軍事利用をやめ、国に対して指定の取り消しを求めていこう」と呼びかけました。



淑郎氏が「地球温暖化はなぜ起るのか」の問いに取り組みました。研究対象は地球と広大です。

最近、わたしが身近で感じる温暖化は、野菜などの作物の収穫時期がずれてきたことです。この地方の端境期（はきかいき）という冬野菜と夏野菜の途切れる時期は5月と10月です。しかし、毎日二の産直出荷している5月より早く冬野菜が姿を消し、タケノコなどの出荷も以前より早いです。逆に時期



がずれ、夏野菜が早く出回るかといえどそうではなく出荷者が言うには種蒔きしても思うように発芽しないそうです。このようにじわじわと温暖化の影響が生産現場にも影響を及ぼしています。農業問題は消費者問題です。農家の赤字を放置し、農家がつぶれ、海外からの輸入が滞るようになったら消費者の食べるものが無くなります。農業政策で必要なのは価格保証と所得補償です。農家が経営を継続できる販売価格と消費者が支払える価格の差を埋めるのは政治の役割です。また、欧米水準並みに農家への直接支払いを増やすべきだと思います。

## シリーズ 「わが町は今」 宇多津町議 神出よしひろ

前回の投稿から約1年が経ち大きく変化した点では、小中学校の給食無償化が今年の2学期から始まること

決定しました。県内では小豆島町、丸亀市に続き3番目となります。5年前に公約として掲げてから一般質問を



行の継続が決まりました。当初、運行中止に向けた議論になっていた

トはつどいのご案内なので、後援会であるかどうかにかかわらず話をする事ができるという点です。当日は私が町政報告、石田予定候補が国政の報告や問題点を訴え、その後来られた方と懇談を行いました。椅子に座ってゆっくり話ができるので、町政や国政のこと

「〇〇夫人は一步後ろに下が

り、そっと取材中の夫を見守った。この様子を見たファンからは『さすがの氣遣い』『いつも控えめに、出しゃばらないで夫を立てる』と称賛の声が上がった。大リーグオールスター戦出場選手の妻を報じたネットニュースだ。はて？いつの時代の方が

原稿を書いたのだろうか？ 東京都知事選をたたかった蓮舫さんには、これでもかというほどの誹謗中傷が続いている。島根県の丸山知事は、「なぜ女性性が勢いよく力強く物事の問題点を指摘するとバッシングを受けるのか。女性への蔑視なり、差別に近い」と批判している。

「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」

日本国憲法第14条に寅子たち（『虎に翼』）がなぜ涙したのか、今を生きる私たちはこの条文を再び噛み締める時ではない

のだろうか。控えめに、でしゃばらないで…そんなことで「スン」として見過ごせる政治状況ではない。大軍拡、裏金、不正だらけの自衛隊、女性への暴行が続く米軍、暮らしていけない物価高…。ヘイト、差別を繰り返し女性やマイノリティを抑圧する社会はつぎ。ミソジニー（女性嫌悪）とハラスメント、ジェンダー不平等に満ちた政治を終わらせたい。

勇気りんりんエッセイ 四国ブロック国政対策委員長 白川よう子

6の日の行動 7月 日本共産党の田辺健一地区委員長、石田まゆ衆院香川2区候補、新社会党香川県本部林英二委員長が訴えました。

